

上宮寺通信

第二十六号

「信じる」という心

過ごしやすい季節となってきました。でも、これから心配されるのは気温差による身体の不調です。今年は新型コロナウイルスもあり、インフルエンザの予防も含めて、例年以上に体調管理をしっかりとしなくてはなりません。

そこで大切になってくるのがマスクと手洗いですが、私たちの生活の中でマスクは必需品となってきました。巷ではいろいろなマスクを見かけるようになり、おしゃれアイテムの一つとなっています。

そんなマスクでも弊害があります。パツと見て顔がわからない

い。私も僧衣を着て歩いていると時々あいさつをされることがあります。マスクのままですと、たまに相手の顔がわからないことも。私は僧侶の姿ということ、マスクをしていてもすぐにわかるのですが、こちらは誰だったかな?となります。

ただ、素顔がわからないと良い面もあります。「マスク美人」なんていう言葉があるようにマスクをしていると男女とも年齢をごまかせますし、美男美女にみられるという点です。

「マスク美人」にどうして見えてしまうのか。これは物事を自分の都合よくみてしまうという私の根性にあるのです。

マスクに隠れている部分に自分の理想とする顔をあてはめて

しまう。だから、マスクをとった顔は自分の想像以上だったということは少ないでしょう。

マスクの下に勝手に自分の理想をあてはめ、勝手にがっかりする。何とも失礼な話ですが、これは私たちの「信じる心」にも通じます。

神様、仏様を信じてと言っても、都合のいい時だけ信じている。何か自分の意に沿わないと「神も仏もあるものか!」ということになってしまうのではないのでしょうか。

先日、女優の芦田愛菜さんが「信じる」ということについて、こんなことを言っていました。

「私たちは『信じる』と言っても、自分の理想を信じているだけではないでしょうか。信じた

ものに『裏切られた』『期待していたのに』と言って落ち込むことがありますが、それは信じていたものの見えない部分が見えただけ。それも含めて受け止めることが本当に『信じる』ということなのでしょう。

彼女は16歳ですが、とても深い考え方をしています。

私たちの「信じる」という心も一度見つめ直した方がいいかもしれません。自分の都合のいいことだけを信じていませんか?



◆行事案内

上宮寺の行事

報恩講

11月8日(日)午前10時

法要 引き続き 法話

法話 伊奈祐諦師

(西尾市安楽寺住職)

※正午頃終了予定です。

※午前だけの法要といたします。

お齋(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

※感染予防のため、マスクの着用にご協力いただきますようお願いいたします。

※今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては変更する場合があります。

◆話題あれこれ

○9月8日にお勤めいたしました秋季彼岸会・永代経法要には、たくさんの方にお参りをいただきありがとうございます。11月の報恩講も、なるべく密にならないように配慮しながら勤めたいと思いますので、皆様もマスクの着用、手指の消毒にご協力いただきますようお願いいたします。

○報恩講もお齋(食事)が出せませんので、代わりに参詣者の皆様にはパンをお配りしたいと考えています。

東本願寺 報恩講

11月21日(土) ~ 28日(土)

名古屋別院 報恩講

12月13日(日) ~ 18日(金)

○例年、10月には雅楽の演奏会があります。しかし、今年はコロナ禍で中止。楽しみにされていた方もおられると思いますが、来年は開催できるよう、今はお互いに感染予防に努めましょう。

○11月16日(月)に東別院で住職が法話をさせていただきます。午前11時10分から午後1時から二座で各30分です。

○京都・東本願寺の報恩講ですが、音楽法要の中止、入堂できる参詣者数の制限、講演会の申込制など、こちらも例年通りの執行とはいかないようです。

○季節の変わり目です。くれぐれもご自愛ください。

【雑感】

8月末に大腸の検査をしました。結果は「異常なし」でひと安心です。50歳を過ぎると、少しでも異常があると「癌」が疑われます。さて、この大腸検査ですが、前々日から始まる「大腸をきれいにする」準備がたいへん。下剤を服用し、強制的にお腹の中のものを出さないといけない。しかも下剤がよく効く！トイレで生活したほうが楽なのではないかと思つたぐらいでした(少々、大げさかな)。でも、お腹に力が入らないのは辛いです。安倍前首相の気持ちがい少しだけわかった気がします。

(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年白銀一丁目十九番十五号

☎052-871-0547

